

オーケストラってなあに？

What's an Orchestra?



NHK SYMPHONY ORCHESTRA
T O K Y O

オーケストラは たくさんの人たちの 愛情がつまった音楽。 だから感動が深い

オーケストラはたくさんの人が力を合わせて作り出す音楽。
楽器の演奏者だけでなく、指揮者やソリスト、合唱団、
そして裏方として支える人々…。
それぞれが大切な役割を持っていて、素晴らしい音楽を
作り出すために、みんな一生懸命努力しています。
だからオーケストラの音楽には、音楽に対する
たくさんの人々の思いや愛情が、たくさんつまっています。
この愛情が、私たちに深い感動でつつむのです。

もくじ Contents

オーケストラのすごいところ	02
オーケストラの楽器のならびかた	04
オーケストラの楽器	
弦楽器	06
木管楽器	08
金管楽器	10
打楽器	12
ハープ/鍵盤楽器	13
オーケストラをもっとくわしく知ろう	14
N響のひみつ	16
マナー講座	19



オーケストラのすごいところ



それはマイクを使わず「^{つか}ナマ音^{おと}」を楽しむ音楽であること

オーケストラは、音をマイクでひろって大きくしません。

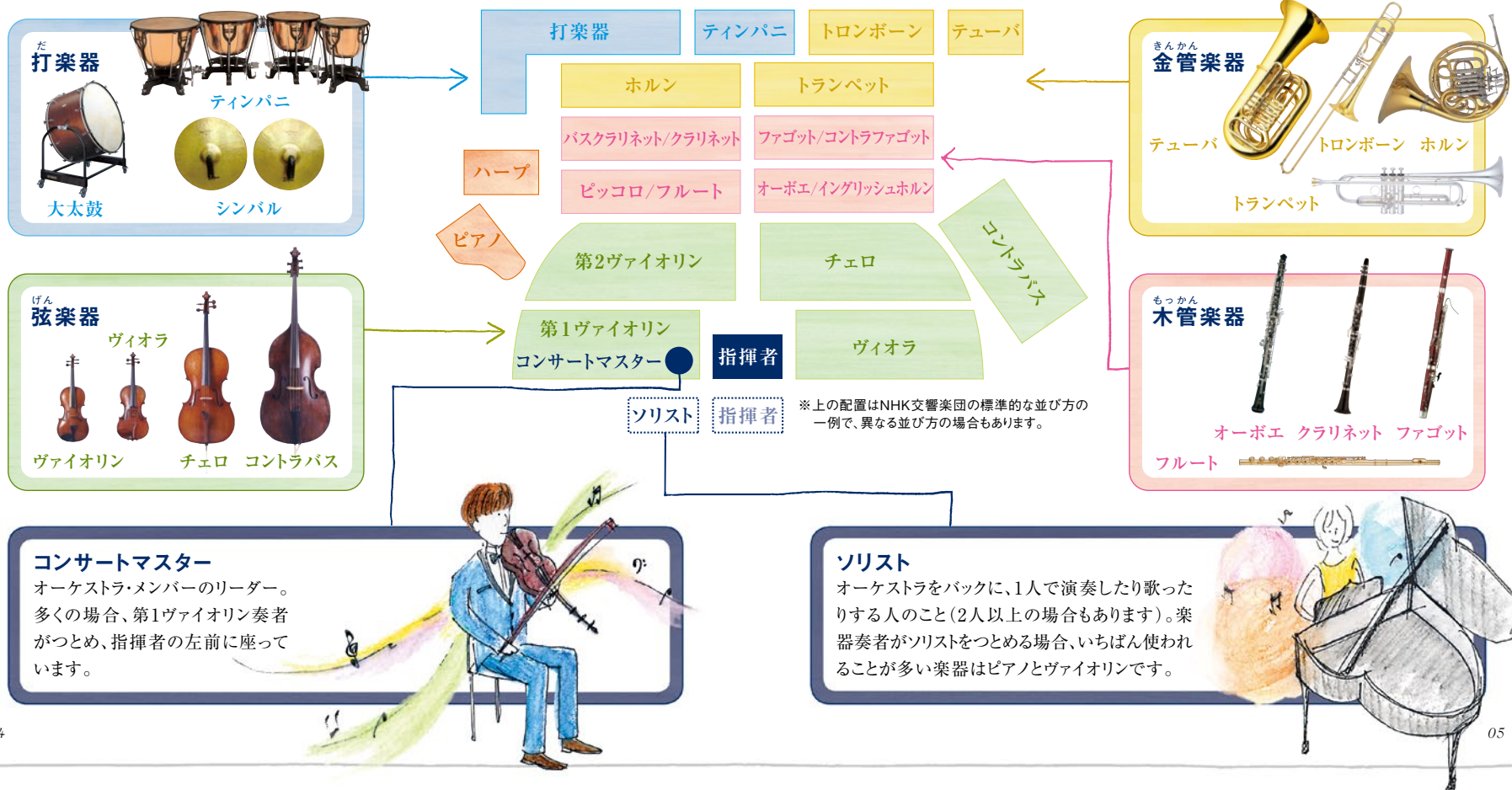
オーケストラはたくさんのメンバーが^{いっしょ}一緒に^{がっそう}合奏するので、
ようやくきえるかすかな音から、おなかの^{そこ}底に^{はくりよく}ひびく迫力ある音まで、
その表現力は無限。演奏者が愛情こめて作り出した音が、
^{ちよくせつ}直接あなたのからだをつつんでくれます。

※マイクが設置してあることもありますが、この場合ほとんどが録音用です。



オーケストラの楽器のならびかた

オーケストラでは、どこにどの楽器の奏者がすわるのか、ほぼ決まっています。オーケストラごと、あるいは指揮者の指示によってそのならびかたがかわることがあり、音のきこえかたも違ってきます。ひとつひとつの楽器については、6～13ページも見てください。



オーケストラの楽器

弦楽器

楽器に張ってある糸(=弦)を弓でこすったり、指ではじいたりして音を出すので弦楽器といいます。オーケストラでつかわれる

弦楽器はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの4つですが、仕組みや演奏方法などに似ているところも多いことから、まとめて「ヴァイオリン属」と呼ばれることもあります。

オーケストラの弦楽器に共通すること

[弦] 楽器には太さの違う4本の弦が張ってあります。ただしコントラバスは低い音域を広げるために、5本弦を張ってあることがあります。

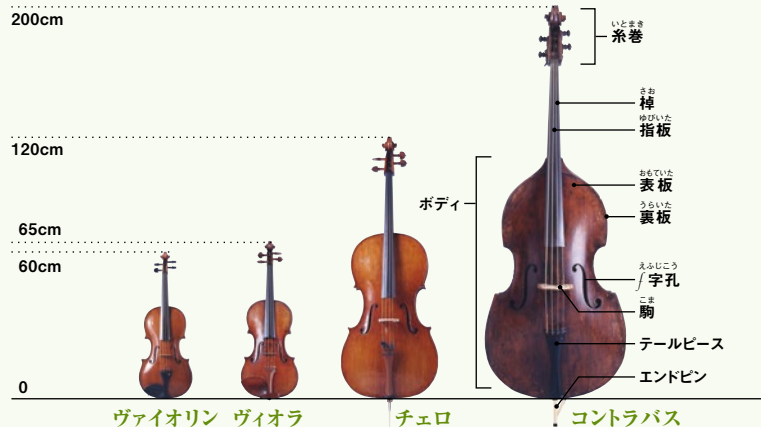
[弓] 木の棒に馬のしっぽの毛を張った「弓」を弦にこすり合わせて音を出します。



ヴァイオリンの弓

ヴァイオリン属

※楽器の高さはおおよそです。



String



ヴァイオリン

なんといってもオーケストラの中心

弦楽器の中でいちばん高い音を担当しているヴァイオリンは、オーケストラでは「第1」と「第2」という2つのパートに分かれて演奏します。ヴァイオリンは、華やかな音色を生かしてメロディーを演奏していることがほとんどで、しかもオーケストラの中で一番奏者が多く、N響の場合、全メンバーの内3人に1人がヴァイオリン奏者です。まちがいないオーケストラの中心楽器です。

ヴィオラ

深みのある音色が魅力

ヴァイオリンよりひとまわり大きいヴィオラは、合唱でいえばアルトあるいはテノールの音域を担当する、深みのある音色が美しい楽器です。オーケストラの広がりや迫力のあるサウンドを作り出す上で、ヴィオラの役割はとても大きく、ヴィオラがオーケストラ全体の雰囲気を決めるといってもよいでしょう。

チェロ

なんでもこなすオールマイティーな楽器

中低音を担当するチェロは1mをこえる長さがあり、楽器をたてにしてエンドピンで支え、両足で楽器をはさむようにして演奏します。豊かな表現力でメロディーを自在に演奏するいっぽうで、コントラバスといっしょになって低音でオーケストラ全体を支えるなど、いろいろな役割をこなすことができる楽器です。

コントラバス

この楽器の出す低音がオーケストラを支えています

左のページのヴァイオリン属の形をくらべてみてください。コントラバスだけが「なで肩」であるのがわかりますか？これはコントラバスだけが別の弦楽器の仲間だったからです。時代とともにヴァイオリン属に近づいてきましたが、その形に歴史をとどめているのです。コントラバスが出す低音はオーケストラにぞったいに欠かせないので、これがないとオーケストラのハーモニーが成り立ちません。

もっかん 木管楽器

「ふえ」の仲間^{なかま}の楽器^{がくき}。管^{くだ}に息^{いき}を吹き込んで音^{おと}を出します。
「ふえ」の仲間^{なかま}の楽器^{がくき}は木で作られることが多いことから、
「木管楽器」といいます。

Woodwind



フルート

とり^{とり} こえ^{こえ}にもたとえられる^{うつく}美しい^{ねいろ}音色

最近のフルートは金属で作られることが多いのですが、むかしは木で作られることがほとんどで、今でも木管楽器の仲間^{なかま}に組み入れられています。鳥の声^{とりこえ}にもたとえられる、軽やかな音色^{ねいろ}が美しい楽器です。フルートの仲間^{なかま}のピッコロ（イタリア語で「小さな」という意味）は、この楽器1本だけで、オーケストラ全体を圧倒する、強烈な音を出すことができます。



フルート

クラリネット

ねいろ^{ねいろ} じざい^{じざい}に自^{ひよう}在^{じよう}に変^{へん}える表^{ひょう}情^{じよう}豊^{ゆた}かな楽器

クラリネットは深みのある音から楽しげな音まで、奏者の思い通りにさまざまな音色を出すことができる表情豊かな楽器です。高い音を担当するEs（エス）クラリネット、反対に低い音が出るバス・クラリネットもオーケストラによく登場します。クラリネットと似た仕組みを持つ金属製の楽器で、ポピュラー音楽や吹奏楽では欠かすことができないサクソフォーンがソロ楽器として登場することもあります。



クラリネット

オーボエ

かん^{かん} 管^{くだ}楽器^{がくき}でただ1つ息^{いき}があまって苦^{くる}しい楽器

管楽器は、演奏中に息が足りなくなって苦しくなるのがふつうですが、オーボエは空気の通り道がたった4mmしかなく、息があまってしまっって苦しくなるとい、めずらしい楽器です。その音色は独特の物悲しさに満ちていて、作曲家たちはこの楽器のために美しいメロディーを作曲し続けてきました。オーボエの仲間^{なかま}で、より低く、深い音を出すイングリッシュ・ホルンもよくオーケストラで使われます。



オーボエ

ファゴット

ぜんぶ^{ぜんぶ}のばすと260cmのノッポさん

木管楽器の中で、いちばん低い音域を担当しているのがファゴット。重々しい低音とメロディーを朗々と歌い上げる高音の対比があざやかで、しかもとほけた味も出すことができるなど、さまざまな表情をもった楽器です。その見かけ上の長さは135cm前後ですが、実は管がU字型に折り曲げられていて全部のばせば260cm。さらに低い音域を担当するファゴットの仲間、コントラファゴットの長さは、全部のばせば590cmにもなります。



ファゴット

金管楽器

「ラッパ」の仲間、くちびるをふるわせて音を出します。

金属の管に息を入れて音を出すので金管楽器といいます。

Brass



ホルン



ホルン

ご先祖様は「つの」でした

「ホルン」という言葉のもともとの意味は、動物の「つの」のこと。狩人たちがおたがいの位置を知らせあうために、「つの」を森でふきあっていました。やがて、このつの笛は金属で作られるようになり、現在の形に発展していきました。現在のホルンは金管楽器にもかかわらず、やわらかいひびきの音を出すのが得意で、弦楽器や木管楽器とも音がよくまじり合い、古くからオーケストラに取り入れられてきました。

トロンボーン

3本そろって美しいハーモニーをかなでます

伸び縮み自在な「スライド」を動かすことによって管の長さを変えて音の高さを調節するのがトロンボーンのおもしろいところ。大きな音から小さな音まで自在に出せる表現力豊かな楽器ですが、オーケストラでは3人のトロンボーン奏者でトリオを組んで、メロディーの裏側でハーモニーをかなでている様子にぜひ注目してください。このトロンボーンの地道ながんばりが、オーケストラ全体を盛り立てます。



テナーバス・トロンボーン

トランペット

オーケストラでもっとも目立つ楽器

金管楽器でいちばん高い音を担当するトランペットは、オーケストラで1番目立つ楽器。華やかなトランペットの音色がひびき渡った瞬間、ホールの雰囲気も一気に盛りあがります。トランペット奏者は曲目に応じてピストン型とロータリー型のトランペットを吹き分けるほか、より高い音を出せるピッコロ・トランペット、すばやい動きが得意なコルネットなどを演奏することもあります。



ピストン型トランペット

チューバ

ひと吹きしただけでオーケストラ・サウンドが一変

金管楽器でもっとも低い音域を担当するチューバは、オーケストラではたったひとりだけで演奏することがほとんどで、トロンボーンやその他の低音楽器と協力して、オーケストラのサウンドを支えています。しかしその存在感は格別で、1本入るだけでオーケストラ全体のサウンドが一変します。チューバの仲間のユーフォニアムという楽器は、吹奏楽では絶対に欠かせない楽器の1つです。



チューバ

打楽器

「太鼓」や「木琴」の仲間で、ものを打ったり、こすったりして音を出すので「打」楽器といいます。

たくさんの種類の打楽器がオーケストラでつかわれますが、ここではもっとも多く登場する3種類を紹介しましょう。

ティンパニ

太鼓なのにドレミが出せる!

オーケストラでいちばん多く使われる打楽器がティンパニ。ふつう、先端にフェルトなどを巻きつけた2本の木の棒でたたきます。

銅でできた胴体にはった皮の張りぐあいを変えることで、音階を演奏できるのがこの楽器のすごいところ。現代の楽器では、ペダルを操作して音の高さを調節します。



ティンパニ

大太鼓

オーケストラで一番大きな音が出る楽器

トルコの軍楽隊で使われていた楽器に起源をもつ大太鼓は、直径が1メートル近くもある巨大な楽器。思いっきりたくと、オーケストラのどの楽器よりも遠くまで音が飛んで行きます。ベートーヴェンやチャイコフスキーは、自分の曲の中で大砲の音をまねするのにこの楽器を使いました。



大太鼓

Percussion



シンバル

シンバルにはいろいろな種類があります

大太鼓と同じくトルコの軍楽隊出身のシンバルは、2つの金属の円盤を打ち合わせて音を出す「クラッシュ・シンバル」が有名。スタンドにとりつけたものをたたく「サスペンデッド・シンバル」や、音の高さが違う小さなシンバルを鉄琴のようにならべて演奏する「アンティーク・シンバル」などもあります。



クラッシュ・シンバル

ハープ

ペダルで音の高さを調整しています

ハープは弦楽器の一種ですが、弓で弦をこすって音を出すヴァイオリンなどとは違い、指で直接弦をはじいて音を出します。オーケストラで使われるハープは、正式には「グランド・ハープ」と呼ばれているもので、47本の弦が張ってあります。足元には7つのペダルがあって、これを利用して弦の張りぐあいを調節してさまざまな音階で演奏できるようになっています。



グランド・ハープ

鍵盤楽器

チェンバロ・オルガン・チェレスタ・ピアノなど

鍵盤を指で押さえて音を出す「鍵盤楽器」もオーケストラで使われます。古い時代の曲には、チェンバロやオルガンがよく使われ、チャイコフスキーの《くるみ割り人形》では、鉄琴を鍵盤で操作できるようにしたチェレスタのかわいらしい音色が印象的です。20世紀のオーケストラ曲では、ピアノをソロ楽器としてではなく、「音を自在に変えられる打楽器」として使っているような作品もあります。



チェレスタ

オーケストラをもっとくわしく知ろう

Q. オーケストラにはいろんな楽器がありますが、
・どんな楽器でも参加できるの？



A. 使われる楽器はだいたい決まっています

オーケストラのことを日本語では「管弦楽」といいます。この言葉のとおり、オーケストラは管楽器と弦楽器、そして打楽器をくわえた合奏のことです。ただし、管・弦・打楽器の合奏といっても、使われる楽器はほぼ決まっていて、6ページから13ページまで紹介してきた楽器が使われることがほとんどです。

Q. オーケストラではどんな曲が演奏されるの？

A. クラシックがメインです

オーケストラには「演奏できない曲はない」と言ってもいいでしょう。さまざまな楽器の組み合わせで生み出す無限のサウンドは、ポピュラー、ジャズとどんなジャンルにも対応します。しかしN響をはじめ、多くのオーケストラがふだん演奏しているのは「クラシック」とよばれる音楽です。これはヨーロッパの「芸術」音楽や、その流れをくむすべての音楽のことで、その有名な作曲家には「音楽の父」バッハや「天才」モーツァルト、「楽聖」ベートーヴェンなど、一度は耳にしたことがある名前ばかりです。



Q. オーケストラでよく演奏される
・「交響曲」って、いったい何？

A. 「ソナタ形式」をふくむ、4つの部分からなる音楽です

クラシックを代表する音楽で、あの有名なベートーヴェンの「運命」という曲の正式タイトルも「交響曲第5番」といいます。ふつう「交響曲」は4つの部分（楽章といいます）からできていて、そのうち1つ以上は「ソナタ形式」という方法で作曲されているのがほとんどです。「ソナタ形式」では、最初に演奏される2つのメロディーが様々に変化しながら、最後に再現されて曲をしめくります。



Q. コンサートが始まる前にオーボエが
・ひとりで吹き始めますが何をしているの？

A. チューニングをしています

オーケストラが美しいサウンドをひびかせるためには、すべての楽器の音程をしっかりとそろえることが大事。オーケストラは演奏を始める前に、オーボエが出す音を基準に音程を合わせます。これをチューニングといいます。弦楽器は糸巻（6ページ）を調節して弦をゆるめると低い音が、ピンと張ると高い音がです。また管楽器は、管のつぎ目を抜いて管を長くすると低い音が、深く差しこんで管を短くすると高い音がです。



「一番」がたくさんあるオーケストラ N響のひみつ

日本で一番長くプロ活動が続いているオーケストラ NHK交響楽団の歴史

日本で本格的にヨーロッパの音楽が演奏されるようになったのは明治時代に入ってからのこと。やがて、オーケストラは音楽学校や軍隊などに作られましたが、その中で本格的なプロ・オーケストラとして結成されたのがNHK交響楽団の前身の「新交響楽団」で、1926年（昭和2年）10月のことでした。

その後、N響は日本を代表するオーケストラとして長く音楽界をリードしてきました。1960年には、日本のオーケストラとして初めて海外公演を行い、今では世界のトップオーケストラの1つとして、広くその名を知られています。

N響ミニ年表

- 1926年 指揮者、近衛秀麿（このえひでまろ）を中心に「新交響楽団」を結成
- 1942年 「日本交響楽団」に楽団名を変更
- 1951年 NHKのバックアップを受けて「NHK交響楽団」に楽団名を変更
- 1960年 日本のオーケストラとして初めての海外公演となる、
世界一周演奏旅行（12か国24都市）を行う
- 1986年 定期公演が通算1000回をこえる
- 2013年 世界的なオーケストラが集まるオーストリアの「ザルツブルク音楽祭」に出演する
- 2016年 創立90周年をむかえる



新交響楽団時代
（1927年、はじめてのベートーヴェン「第9」）



世界一周演奏旅行
（1960年、イタリア・ミラノにて）

日本で一番放送に出演しているオーケストラ NHKとNHK交響楽団

「NHK交響楽団」という名前からもわかるとおり、N響はNHK（日本放送協会）の仲間のオーケストラとして、定期公演の中継など数多くの音楽番組に出演しています。日本では現在ただ1つの放送局のオーケストラですが、世界的に見ると放送局がオーケストラを持つのはよくあることで、ドイツのバイエルン放送交響楽団、イギリスのBBC交響楽団、フランスのフランス放送フィルハーモニー管弦楽団、韓国のKBS交響楽団など、その国を代表するオーケストラが放送局のオーケストラであることも珍しいことではありません。

NHK交響楽団に関連する番組

番組名や放送日時などは変更になる場合がありますので、最新の情報はNHKやN響のホームページでご確認ください。

▶ NHKのホームページ www.nhk.or.jp ▶ N響ホームページ www.nhkso.or.jp

【テレビ】

■ クラシック音楽館

N響の定期公演をはじめ、一流のオーケストラの演奏会をたっぷり放送します。

Eテレ：日曜 午後9時～11時

■ プレミアムシアター

N響演奏会やオペラ、バレエ、コンサートなど世界一流の公演をお届けします。

BSプレミアム：毎週日曜（第1週のぞく）
午後11時20分～

【ラジオ】

■ ベストオブクラシック

FM：月曜～金曜 午後7時30分～9時10分

■ N響演奏会

FM：土曜（随時） 午後6時～8時15分

定期公演A・B・CプログラムをFMで生中継します。
公演日によって、放送時間が変わりますのでホームページ等でご確認ください。

■ NHKネットラジオ らじる★らじる

ラジオ第1・ラジオ第2・NHK-FM放送の音声と番組情報をインターネットできくことができます。

※ 上記は、2021年4月現在の情報です。

このほかにもN響の演奏を紹介する特別番組が放送されることがあります。
大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」も演奏しています。

日本で一番たくさん「定期公演」を行ってきたオーケストラ NHK交響楽団のコンサート

プロのオーケストラにとって、「定期公演」は活動の中心となるとても大切な演奏会。N響では1927年に第1回の定期公演を行って以来、第2次世界大戦中の大変な時代も中断することなく続けられ、今まで1900回をこえる公演を行ってきました。これは日本のオーケストラの中でも、ダントツの回数の多さです。現在、定期公演はA・B・Cの3つのプログラムごとに年間9回、それぞれ2公演ずつ行うので、あわせて年間54公演行われています。

定期公演のほかにも、年末の「第9演奏会」、夏休みの「ほっとコンサート」などの特別公演や、全国各地のコンサートホールでの演奏会も行っています。また、2020年には、ヨーロッパ7か国9都市をまわるなど、海外公演も行いました。



オーケストラに4人の歌手や合唱団が加わる、年末恒例の「第9」は迫力満点です。(2019年の様子から)



海外公演でも多くのお客様に演奏をお楽しみいただきました。(2020年3月ウィーン公演の様子から)



「ほっとコンサート」ではロビーで楽器体験できるコーナーも開設することがあります!(2019年の様子から)

コンサートに行こう

オーケストラはやはり生できくのが一番。N響の定期公演・特別公演では、25歳以下の人たちにお得な「ユースチケット」を用意しています。(公演により異なります。)

N響のコンサートについてのお問い合わせ・資料のご請求

[N響ガイド] tel: 03-5793-8161

〒108-0074 東京都港区高輪 2-16-49
(営業日、営業時間はN響ホームページをご覧ください)

▶ N響ホームページ www.nhkso.or.jp



「ナマ音」の楽しさを味わうために みんなで守りたい演奏会のマナー

オーケストラの「ナマ音」を楽しむためには、
みんなで気をつけなくてはならない
約束ごとがあります。
これを「マナー」といいます。
よいマナーで、コンサートを楽しんでください!



Manner

1

演奏中におしゃべりはしないでね!

おしゃべりは、いっしょうけんめい音楽をきいている人にとって、
とてもみみざわり。音がよくきこえるように作られている
ホールでは、小さなひそひそ声でも、ホール中に
ひびきわたってしまいます。



Manner

2

エヌジー て あら かい えん まえ
たちあるきもNG! お手洗いは開演前に

演奏中に立ち歩いてはいけません。
せっかく集中してきているのに、気が散ってしまいます。
お手洗いはコンサートが始まる前や、休憩中にすませて
おきましょう。もしどうしても我慢できないとき、気分が悪いときは、
静かにホールの外に出るようにしましょう。

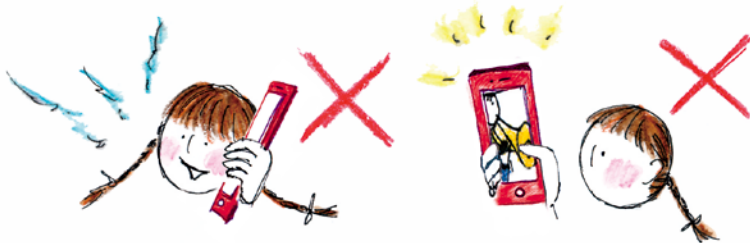


Manner

3

でんげん オ フ
ケータイの電源はOFF!

もし演奏中に、突然ケータイの着信音がなりひびいたとしたら…。
オーケストラも客席にいる私たちも、集中力がとぎれて
しらけてしまい、音楽どころではありません。ケータイの電源は、
ホールに入る前に必ず切っておきましょう。ケータイのカメラで
演奏の様子をさつえいするのも、もちろんいけません。



Manner

4

えんそう お おお はくしゅ
演奏が終わったら大きな拍手を!

オーケストラの演奏が終わったら、
大きな拍手をプレイヤーにおくってください。
みなさんの拍手が大きければ大きいほど、
さらにはりきって演奏してくれることでしょう。



MANNER OF
CONCERT...



2007年8月5日 発行 2021年4月1日 改訂
制作・発行 公益財団法人NHK交響楽団
構成・文 猪股正幸
AD・デザイン Azone+Associates
イラスト 寺井さおり
写真提供 ヤマハ株式会社/株式会社 松尾楽器商会

※文中の楽器名や音楽用語の表記はNHK交響楽団の基準にもとづいています。



www.nhkso.or.jp

©NHK Symphony Orchestra, Tokyo All right reserved.